

宮城県東松島市と災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式を開催しました (2013/8/21)

テーマ：包括的連携と相互の協力

会場：宮城県東松島市役所会議室

8月21日(水)、宮城県東松島市役所において、宮城県東松島市と東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定締結式が開催されました。東松島市は、津波浸水区域の割合が市街地の約65%と、全国の被災市町村の中で最も高い割合ですが、現在は「みんなの心と力をひとつにHOPE(希望)」をかがげ、集団移転事業、災害公営住宅事業などの復興対策を迅速に進めているほか、「環境交流」による復興推進にも取り組んでいます。一方、災害科学国際研究所は、文系と理系の垣根を越え、減災に係る様々な研究と実践的な取組を推し進めており、東松島市における地域防災計画の策定、ハザードマップ作成、復興まちづくりなど、多くの所員が様々な場面で防災や減災、復興に関する取組を支援しています。また、東松島市立図書館との震災アーカイブに関する連携的な取組も行っています。

東日本大震災による被災からの復興まちづくりにおける防災及び減災対策を効果的、そして実践的に進めていくことに関して、東松島市と東北大学災害科学国際研究所との思いが一致したことから、今後、互いに連携して、これらを活発化させる礎とするよう、本協定の締結を行うことになりました。本協定は、当研究所と東松島市がそれぞれに有する資源を活用し、地域社会の振興と発展、社会ニーズに対応した研究の深化の他、未来を担う人材の育成のため、互いに連携協力を行うものです。締結式には、阿部秀保 東松島市長、平川新 災害科学国際研究所長の他、立会人として東松島市から工藤昌明氏、櫻井清春氏、小林勇氏、齋藤友志氏、災害科学国際研究所から今村文彦 副所長、阿部昭 事務長、真野明 教授、佐藤翔輔 助教、池田菜穂 助教が出席しました。協定についての説明が行われた後、「宮城県東松島市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定書」に平川所長と阿部市長が署名し協定が締結されました。

締結式後には和やかな雰囲気の中、意見交換が行われ、震災から得た教訓と未来への備えに関する検証の重要性と今後の課題、津波だけではなく河川も含む洪水への対策、避難計画、復興まちづくり、映像と文字による震災の記録のデータベース化など、様々な必要性が確認されました。



協定書に署名する平川所長(左)と阿部市長



記念撮影



協定書締結式後での意見交換会

文責：池田菜穂（情報管理・社会連携部門）
鈴木通江（情報管理・社会連携部門 広報担当）